

【7】阿波おどりの歴史と魅力について語ろう

阿波おどりは歴史的にどのように変化していったのだろうか、その特色と魅力とは何だろうか、資料から読み取ろう。

現代の阿波おどり



風流踊りの再現



鈴木芙蓉「阿波盆踊図」
(個人蔵)



徳島県有形文化財
「徳嶋盃盆組踊之図」の一部
(個人蔵)

阿波おどりの歴史

「阿波おどり」の起源は、お盆に祖先の霊を供養するために踊られた「盆踊り」にあると考えられています。

左の図は、最古の盆踊り図とされるもので、この世に戻る祖先の霊のための大きな傘の横で、廻り踊りをする盆踊りの原形が描かれています。

また、盆踊りの形態の変遷を見ていくと「風流踊り」の影響が見られます。

風流とは、優美で、人の目を驚かす作り物や仮装を伴うものです。その後、徳島城下では、風流踊りを継承する「組踊り」が盛んに演じられました。しかし、城下の地域集団の町組が巨大な作り物を中心に踊りを競ったため華美となり、たびたび藩から取り締まりをうけました。

盆踊りが最も流行したのは、幕末の文化・文政期(1804~1830年)です。それを支えていたのが当時全国的に経済活動を繰り広げていた徳島の商人たちでした。「阿波盆踊図屏風」では、現在の阿波おどりにつながる当時の「ぞめき踊り」(囃子と唄声に合わせて浮かれ騒ぎ、一方向に行進する踊り)が見えます。

明治期以後も、盆踊り(阿波の盆踊り)は徳島市民に受け継がれ、郷土の夏の芸能として広く定着していきました。

昭和初期には、日本画家の林鼓浪が「阿波の盆踊り」を「阿波おどり」と呼ぶよう提唱し、昭和の観光ブームが巻き起こって以降、伝統を受け継ぐとともに流行を取り入れ、絶えず進化、発展してきたのが今の阿波おどりなのです。



吉成霞亭「阿波盆踊図屏風」六曲一双の一部 西野武明氏所蔵



大正時代の絵葉書

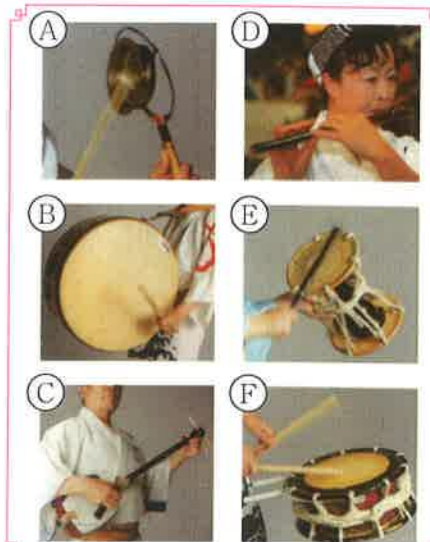


多田小餘綾(お鯉さん)
百寿記念CD「唄声は時代を超えて〜」
(立木写真館撮影)

「阿波よこの」の歌詞

ハアラエライヤッチャエライヤッチャヨイヨイヨイヨイ
阿波の殿様蜂須賀さまが今に残せし阿波踊り
笠山通れば笠ばかり猪豆喰てホウイホイホイ
笛や太鼓のよこのばやし踊りつきせぬ阿波の夜
踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らにゃ損々

主な鳴り物
「とくしま観光ガイド」
(徳島市・徳島市観光協会)



① 鉦 ② 大太鼓 ③ 三味線
④ 笛 ⑤ つづみ ⑥ 締太鼓

阿波おどりの魅力とは

阿波おどりをおそらく世界に初めて紹介したポルトガル人

あらゆる死者に捧げられた祭りらしい神秘的熱狂につつまれていた。その数日間生者と死者はこの世で特別の友愛の日々をすごし、誰もが…亡くなった愛しい人々をいつくしむ。
『徳島の盆踊り』1916 モラエス



東京や北海道など60カ所以上に広がっているよ。主な祭りのうち、1日当たりの集客数が多いのは、
・青森ねぶた祭り……………59万人
・山形花笠祭り……………45万人
・さっぽろ雪まつり……………32.8万人
・徳島市阿波おどり……………29万人

『阿波踊り讃歌』徳島ペンクラブ参照

この爺さん四国の阿波、剣山のふもとに住んでいたのである。(中略)
鬼たちの芸のないことおびたしい。「ひとつ私の手踊りでもみせましょうかい。」と円陣の真ん中に飛び込んで自慢の阿波踊りー。
『瘤取り』1945 太宰治

徳島未経験の作者が創作

席上、女性のひとりだけが、「いまはこれ(阿波おどり)だけですね。よう残してくれはったものやなあ」(中略)

阿波に、「これだけですなあ」というものがあるというのは、大きい。他の府県がうらやましがって、西洋風のパレードをやったり、民謡と日本舞踊の街頭進出を試みたりしているが、洗練度がちがう。歴史は、真似られないものなのである。
『街道をゆく三十二』1993 司馬遼太郎

夜、料亭で阿波おどりを見て

青年海外協力隊員、荒川さんと同行したJICAスタッフと一緒に子どもたちの前で阿波踊りを披露することになった。鳴り物もない即興の踊りだったが、それでも子どもたちは手をたたいて喜んでくれた。

2ヵ月がたち、荒川さんからメールが届いた。「今も時々『今度、あの人たちはいつ来るの?』と聞いてきます。こちらが何も言わないのに阿波踊りを踊るんですよ。もちろんエジプト流の踊りですが(笑)。」

徳島新聞「アフリカの今」2013.4.27